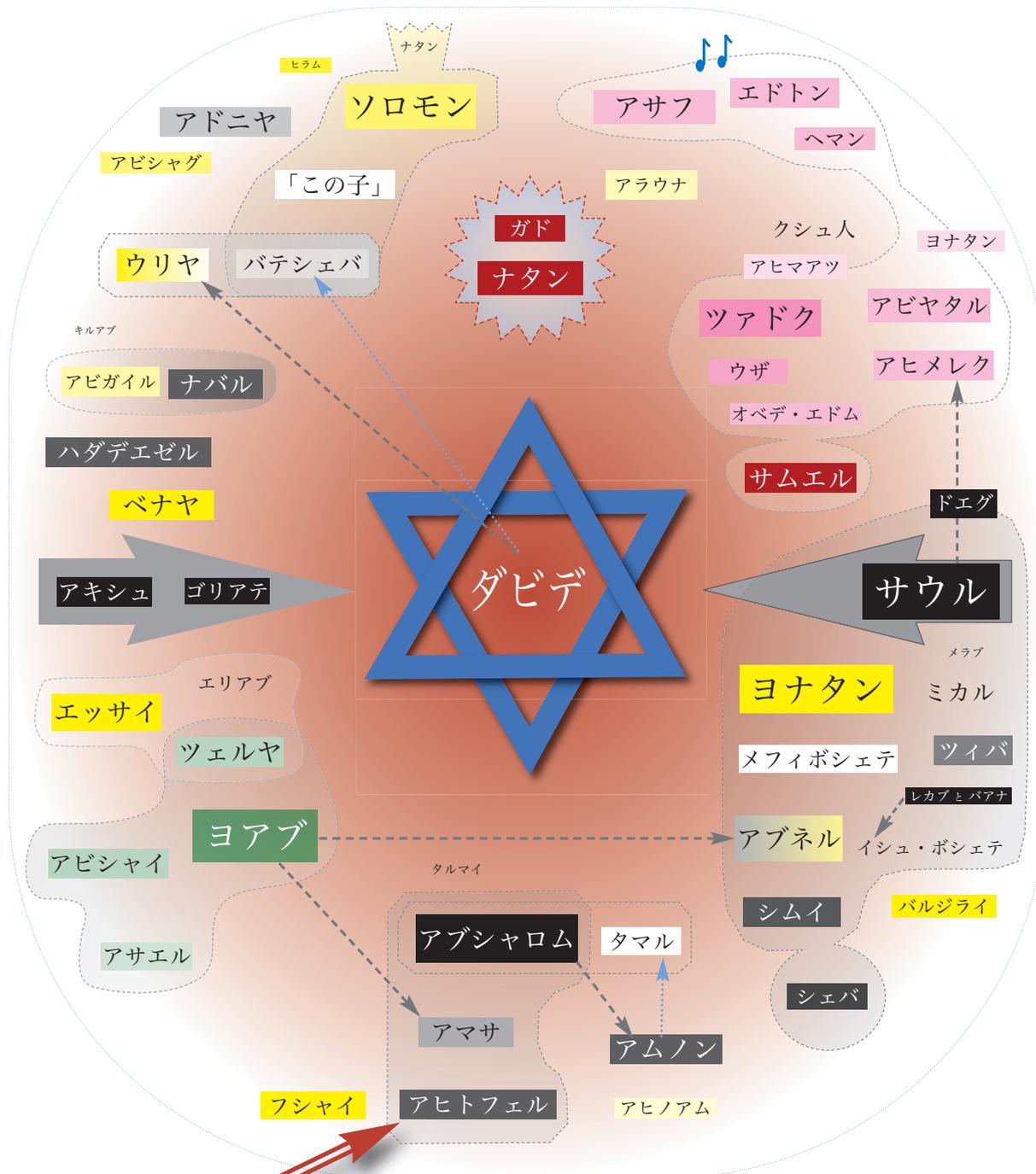


# ダビデを



取り巻く人々

## アヒトフェルについて

1.) アヒトフェルはダビデ王の議官（助言者）で(1歴代27:33)、彼の優れた助言は皆に尊敬されていました(2サム16:23)。しかしフシャイとは違って、彼はダビデの友ではありませんでした(2サム16:17,1歴代27:33)。ダビデの子アブシャロムが反逆した時、フシャイはそれに加わるように見せかけましたが、アヒトフェルは実際加わりました(2サム15:12)。

2.) アヒトフェルは政治的にも軍事的にも優れた知恵を持っていたので、彼はおそらくダビデが直面した人の中で最も危険な敵だったでしょう。人間的に言えば、もしアブシャロムが彼の助言に従ったのなら(2サム17:1-4)、ダビデは殺され、アブシャロムが王位を継いだでしょう。彼の知恵の故に、アヒトフェルはダビデにとってサウルのどの兵士より（ゴリヤテよりも）危険な存在になりました。

3.) サウル王にも家来がいましたが、彼はしばしば愚かになり、彼の息子ヨナタンの知恵ある助言を退けたりしました(1サム20:30-34)。終わり頃には、霊媒師にまで将来について、またこれからどうしたら良いか助言を求めるほど切羽詰まっていました。しかしアブシャロムは反逆した時からアヒトフェルを助言者として側に置きました。

4.) 優れた心理学者、また社会学者、政治学者のように、アヒトフェルは、人々がどのように考えるか、反応するかをよく理解していました。彼の“*How to*”(やり方)についての助言には、人間的な洞察がありましたが、神様からのものではありませんでした。2サム15～17章に、彼の信仰を表わす事は何も見つかありません。

5.) なぜアヒトフェルがダビデを裏切ってアブシャロムについてのかは、わかりません。しかし明らかな事は、彼が信仰や友人関係でそれを決めたのではなかった事です。彼はダビデの真の友ではありませんでした。ダビデの前には、彼の事をそう思っていたかもしれませんが(詩55:12-14)。彼はただ自分の仕事として、助言をしていました。おそらく(新約のユダのように)彼はただ勝ち組にいたかったのでしょう。

6.) アヒトフェルは、ダビデとバテ・シェバの罪について怒っていたのでダビデを裏切ったと考える人もいます。そう考える人は、2サム11:3と23:34から、アヒトフェルがバテ・シェバの祖父だと考えりののですが、それは証明できません。さらに、アヒトフェルが罪について真剣に考えていたという証拠は、どこにもありません。

7.) 神様は、ダビデの友であるフシャイの助言を用いられました。アヒトフェルの助言に敵対し、それを負かすためです(17:14)。肉体的戦士ゴリヤテのように、頭脳的戦士アヒトフェルは、長年の経験と能力にもかかわらず、最後には敗北しました。しかし神様は、神様に信頼したダビデを助け出されました(詩55:22-23)。

8.) アヒトフェルは、自分の計画がなされなかったのを見た時、静かに家に帰り、周りを整理して、首をつって死にました(17:23)。彼はアブシャロムは勝利しない事を知っていました。その知識は、ある意味で正しい知識と言えますが、それは彼に何の役にもたちませんでした。ユダのように、彼は真に悔い改めをしなかったのです。

## アヒトフェルは...

2サム 15:12, 15:31-34, 16:20-23, 17:1-14,17:23を読んで下さい。

合っていると思うものには○、違っているものにはX、どちらでもないものには△をつけましょう。

### ( ) 賢い人？

- ( ) 政治の専門家？ (16:21-23)？
- ( ) 軍事専門家 (17:1-4)？
- ( ) 計画性がある(17:1,23)？
- ( ) より賢い人によって負かされた(17:14)？
- ( ) ソロモンのように賢かった？

### ( ) 悪い人？

- ( ) 裏切り者、打算的(15:12)？
- ( ) すぐにアブシャロムの側についた(15:12)？
- ( ) かつてはダビデの友であったフシャイのよう(16:17)？
- ( ) ダビデのようではなく、アブシャロムのよう(15:12)？
- ( ) 不道徳的(16:20-22,12:11-12)？
- ( ) いくつかの点でユダに似ている？

### ( ) 世の中の（一般の）専門家？

- ( ) 経験豊富で皆に一目置かれていた(15:12,16:23)？
- ( ) 議官（助言者）であって、預言者ではない(16:23)？
- ( ) “How to”（方法論）が中心だった？
- ( ) 今日私たちの周りにいるいろいろな専門家のように？

## 結論と適用

**アヒトフェルから学ぶ事：**  
**神様を知らない専門家たちに注意せよ！**

詩篇55:12-14でダビデが言っているのは、アヒトフェルのことかもしれません。もしそうなら、彼はアヒトフェルの裏切りに大きな心の痛みを受けたのです。アヒトフェルはダビデにとってとても危険な存在でしたが、その裏切りは、個人的な痛みをもたらしました。ダビデは、彼に対してもっと注意深くあるべきでした。2サムエル記からは彼の信仰のないことが伺えますが、もしそれが本当だったなら、ダビデは彼の罪についてもっと早く気がついていべきでした。しかし反面、アヒトフェルは後になるまで、巧みにその悪い面を王から隠していたのかもしれません。(彼の悪い面は、アブシャロムについた時から明らかになりました。)どちらにしても、私たちは主を知らない専門家(どんなに彼が正しくても!)からの助けやアドバイスに対して気をつけなければならない事を、アヒトフェルから学びます。長い目で見る時、世的に正しくまた役立つ事は、主を知り、主に従って生きる事ほど重要ではありません。

アヒトフェルについて言われている事で最も興味深くまた重要な事は、彼の助言は神からの言葉のようだった(2サム16:23)、という事です。彼はとても知恵深かったのです。ほとんどいつも正しかったのです。他の人が間違っている時でも彼は正しかったのです。彼は実際預言者ではありませんでしたが、ある意味で預言者と似たような事をしていました。アブシャロムは、預言者ナタンを通して神様に尋ねるのではなく、アヒトフェルに尋ねたのです。これは、サウルがエン・ドルの霊媒師の所に行ったのと、良く似ています(1サム28)。ある意味でアヒトフェルは霊媒師よりも危険な存在だったと言えます。彼は実際にオカルトに関わっていた人のようには、悪く見えなかったからです。

もちろん、私たちはクリスチャンとして、未信者の教師や他の専門家の言う事を絶対に聞いてはならない、ということではありません。正しい事を言う人に耳を傾ける事は大事です。問題は、アヒトフェルの助言は、世的であり、時には良く、時には悪いものだったということです。たとえばアブシャロムに与えた助言、ダビデのそばめたちの所に入れという事(16:21-22)です。政治的に言えば、それは正しい助言でしたが、不道徳でした。彼はアブシャロムに、政治的に勝利するために、姦淫を犯すように助言したのです。神の言葉は心に留められませんでした。

最後に、アヒトフェルがイスラエルの議官であった事に注目しましょう。イスラエルの中に、そのような危険が存在したのです。その危険性は始めははっきり見えなかったのですが。同じように、今日福音的な教会にも、社会科学(特に心理学や社会学など)の影響から来る危険が多くあります。聖書的でない社会科学の考えは、いわゆる「教会成長」や、様々ないわゆる「クリスチャンカウンセリング」を通して、多くの教会に入って来ました。ダビデの時代と同じように、神様に仕える働きと、一般の世的な専門知識が一緒になることには、やはり大きな危険性があることを忘れないようにしましょう。